

本

男は70を迎えようとしていた。定年退職してから何年かの臨時職を経て、今はいくつかのボランティアを除いて仕事はしていない。ささやかな年金と蓄えを切り崩しながら生きる、いわゆる年金生活者である。

何を遺し何をかたづけるか、残り時間を思えばそろそろ「終活」にも取りかからねばならなかった。ある日、本棚の整理をしたとき、黄色い表紙のそれはあった。

「英文解釈法」 著者：東京教育大学教授 芹沢栄 （金子書房）

男は黄色い表紙の本を手に取りながらあの時を鮮明に思い出した。

高校3年の夏、それぞれが志望校への合格に向けて走り始めていた。その流れに呑み込まれるように男も理系学部合格を目指していた。理系科目、つまり数学、理科の問題を解くことに学習の大半を当てていたが、半面、不得意な文系教科はなおざりだった。

男は高校入学してすぐ、ある数学教師との出会いから数学に傾倒していた。一方、中学校までは得意だった英語の予習、復習にかける時間はおのずと短くなった。とりあえず授業だけをしのぐような単語調べだけの学習では習得の成果は知れたものだ。案の定、理系科目に比して英語の成績は下降し、それは理系科目がどんなに良くてもカバーできないほどになっていた。

夏休みの前期補習の最終日最後は学級担任の英語補習だった。担任のあだ名は「コンピュータ」。単語1つから派生語、構文、例文、はては発音、大学入試過去問に至るまで、それは電子回路のような速さと正確さで展開した。佳境に入った時、次々と繰り出されるアルファベットの波に生徒たちは初めて外洋に出た時の船乗りのような躍動感を味わった。

補習が終わり廊下に出るとその「コンピュータ」に呼び止められ、「少し話がある」と職員室の方向を指さした。生徒にとって職員室はにがてな場所である。

「失礼します」と会釈をし入ると「コンピュータ」は自分の椅子に座り、空いている隣の椅子に男を座らせた。そして何度か受けた校外模試の一覧表を手に取り成績を見る。

「君は、理系科目に比べ英語が若干にがてなのは夏休み前の面談で話した通りだが、この夏、英語への取り組みは順調にっているか？」

一瞬、口ごもった、それは理系科目に傾倒する学習がいまだ変わらないからである。

それを見透かしたように机上から黄色い表紙の本を持ち上げ「この参考書をやるから最初から丁寧に読んでごらん」と渡された。

それがこの本だった。

入試は総合点だ。幅広く勉強しなければならない、特に不得意な科目にテコ入れしなければ合格することはできない。それは十分承知していた。だが、いざ数学の難問を前にすると解答できるまで没頭してしまう。今思えば入試問題は必ず解答が存在するからこそその所業なのだが、できないと夢の中まで出てきて、ある時など夢の中で解けたこともあったほどだった。

そんなとき担任の「コンピューター」から渡された「英文解釈法」。その日から毎日、問題文をできるだけ読み進めると決意した。その後、決意通りに参考書を仕上げたのかどうか。記憶はそこまでだった。

その後、男は、案の定、国立大学に受からず私立大学の数学科に行くことになった。そこは私立でも比較的学費の安い大学であったが東京での生活費はバイトだけでは補えず親に頼らざるを得なかった。ただ、男は、国立大学の希望も捨てきれず入学後しばらく受験勉強を続けて再受験を考えた。模擬試験も受けたが所詮一人勉強の追い込みの甘さもあって思うように得点が伸びず断念せざるを得なかった。今思えばきっぱりと中退し退路を断てばと思うが当時そんな勇氣はなかった。

男は、卒業して高校の数学教師になった。多様な生徒との関わり合いの中で専門だけでなく英語や歴史、古典など幅広い教養の必要性を感じた。高校時代にもっと学んでおけば良かったと思った。ただ教師の仕事は多忙だった、授業の教材準備、採点、添削、そして放課後、休日の部活指導など、次々に追われて日々が流れていった。

その間、何十年、「コンピューター」からいただいた「英文解釈法」は黄色い表紙を向けたまま本棚の隅にささったままだったのだ。

やっと見つけてくれたと待ちわびていたようなその本を開く。まず問題文があり、構文、解釈、単語が簡潔に記述されていた。さらにめくると問題文 114 まで鉛筆で書き込みがあった。高校時代の癖のある字だった。問題文は全 229 題だから結局は半数にも届くことなく中断したのだった。それと共に今は亡き「コンピューター」のあの顔と声が蘇った。いただいた本を読了しなかったことに一抹の後ろめたさを感じた 70 男は、以来、この黄色の表紙の参考書を最初から解き進もうと決意したのだった。

問題文 1

Your wonderful skill in music has brought you into strange trouble.

直訳は「あなたの音楽の素晴らしい技術があなたを妙な災難に（bring→brought）引き入れた。」本の解釈は「君は音楽が素晴らしく上手だから、妙な災難に巻き込まれたのです。」

まず、問題文を写す。単語、構文を調べる。電子辞書が無くてネットの辞書サイトを利用しながら単語の意味、発音そして例文まで詳しく調べる。続いて、直訳だが自分で訳をつけてみる。それは本に記載された解釈には到底及ばない。それに男は国語力の限界を知る事になるが、時折、英文を読み進める中、含蓄のある文に出会うこともある。

問題文 105

We all complain of the shortness of time and yet we have more than we know what to do with. Our lives are spent either in doing nothing at all, or in doing nothing to the purpose or in doing nothing that we ought to do. We are always complaining that our days are few and acting as though there would be no end to them.

訳 私たちは皆 時間の短さに(complain)不平を言う。(and yet) それにもかかわらず、私たちは、(what to do with) どう処理したら良いか、(more than we know) 私たちが知っている以上の=私たちが分からない程の (have (time の略)) 時間を抱えている。(Our lives) 私たちの一生は、(in doing nothing at all) 全く何もしないで費やされるか、(in doing nothing to be purpose) 目的に向けて何もしないことに費やされるか、(in doing nothing that we ought to do) なすべきことに何もしないことに費やされるかである。私たちは、私たちの日々が少ないといつも(complaining)不平を言いながらも、(as though there would be no end to them.(them=our lives)) 人生にまるで終わりが無いかのように (acting) 振る舞っている。

問題 114

The history of this country has been a conflict between two political parties. The annihilation of one of the parties would be a folly like that of a bird which, feeling the resistance the air offers to its flight, imagines how well it would fly if there was no air at all.

訳 この国の歴史は二つの政党の(conflict)争いであり続けている。その政党の一つの (annihilation) 絶滅は、空気がその飛行に(offer to)与える(resistance)抵抗を感じて(if there was no air at all)もし、まったく空気がなかったら (imagines how well it would fly) どんなにうまく飛べるだろうかと想像する鳥の (that=folly) それのような、(folly) 愚行であるだろう。

問題 165

Happiness is not, like a large and beautiful gem, so uncommon and rare that all search for it is vain, all effort to obtain it hopeless; but it consists in the enjoyment of little pleasure scattered along the common path of life, which, in the eager search for some great and exciting joy, we are apt to overlook.

構文 not so A, that B : B であるほど、そんなに A ではない。

訳 幸福は、大きくて美しい(gem=jewel)宝石のように、(all search for it)それを(search for)探そうとする全てが(vain=useless)むだで、(all effort to obtain it (is の略) hopeless)それを得ようとするすべての努力が望みがないというほど、珍しくも希でもない。しかし、それは(along the common path of life)人生の普通の行程の間に(scattered)散存する(the enjoyment of little pleasure)小さな喜びの楽しみ中に(consists in)存在する。それ(=小さな喜びの楽しみ)は、何か大きな胸躍る喜びを(eager)熱心に探すことで(overlook)見落と(are apt to = 傾向がある)しがちである。

結局、最後の問題229まで行き着くのに半年以上かかった。問題を解き上げたとき、ふと裏表紙を見るとそれまで気づかなかった青インクの小さい字で「健闘を祈る。T」と記入されていた。Tは「コンピューター」のイニシャルである。

そういえば、「コンピューター」が教卓にある出席簿に毎朝、生徒の出欠を記入するとき胸からいつも青インクのモンブランを取り出していた。「コンピュータ」の青インクを見ながら男は胸が熱くなった。そして、男は、今度は本棚の目立つところに黄色い表紙の参考書を丁寧に差し入れた。